

## Studer A800 Multichannel Tape Recorder 使用のTips

実際に気づかれた方も多いのですが、このA800プラグインにはあなたのミックス全体を“一体化”するすばらしい機能を持っています。つまり2インチのアナログテープに録音したかのような、暖かみと空気感とパンチがミックス全体に施すことができるのです。

しかし、この機能をミックス有効に使っていただくため、いくつかのヒントをご用意しました。

**A800 プラグインをどのように試聴するか** まずA800そのものの音を“聴く”一番の方法は、現在トラックに付加されているすべて、—EQ、コンプレッサー、リバーブ、サチュレーションなどを外すか、オフにしてみてください。もしくは新たに空のトラックを並べるところから始めてみてください。そして、A800プラグインを各チャンネルの最初のインサートへ立ち上げてください。これが“スタートポイント”となります。それからその他のプラグインを追加し、A800と合うように調整してみてください。たぶん以前よりEQやコンプレッションは少なくて良いと気づくでしょう。これこそがStuder社のテープマシンの特長で、A800プラグインの特色なのです。バスやマスターに使うならば、テープヘミックスしているような効果を得られます。また全チャンネルそれぞれの最初のインサートに立ち上げれば、まさにマルチトラックテープレコーダーに録音されているかの効果を得られます。

**A800 プラグインをサチュレート/オーバードライブさせるか** Studer社A800は今まで存在したものの中でも、最もクリーンなサウンドを誇るテープマシンでした。正しく調整されたA800ならばワウフラッターとも無縁でした。しかし好奇心旺盛な80年代や90年代のエンジニアが、バイアスを多めにかけることでA800にサチュレート効果を与え、結果としてスムーズなオーバードライブされたテープサウンドをつくるようになりました。このプラグインの場合、“Studer バッジ”（銘版）をクリックすると二次的なパラメーターが現れます。Biasコントロールを時計回りに回し、さらに入出力ノブを調整してお好みのサウンドにしてみてください。もしサウンドが暗過ぎると感じるならば、HF Record EQコントロールを使って高域を調整してみてください。ただしこのフィルターは強力なので、使い方はほどほどに。テープマシンを“正しくない”使い方で動かしているということを忘れないでください。しかしこれこそがアナログマジックと呼べる、素晴らしいノンリニアトーンを得られる秘訣です。

**どのように"Gang"コントロールを使ってすべての設定を一度に反映させるか** セッションでのA800の設定が納得いくように完了したならば、“Studer バッジ”（銘版）をクリックして二次的なコントロールを開きます。ここから"Gang"コントロール機能を使います。赤のLEDが点滅しているときは、すべてのA800プラグインに対して同じ状態になっていることを表します。これによ

り大幅な時間短縮ができます。

**A800 プラグインのテープリール回転を止めるには** プラグインの動作中、テープリールが回転するようになっていて、ちょっとうっとうしいかも知れません。しかし“IPS”の文字をクリックすることでこのアニメーションは停止します。

これらのヒントによって、Studer A800 プラグインをより快適にお使いいただければ幸いです。